

# こすもす

市原市立中央図書館報 第144号  
発行日 : 令和6年10月15日  
発行者 : 市原市立中央図書館  
(市原市更級5丁目1-51)  
よくよむ

TEL 0436 (23) 4946



市原市立図書館  
ウェブサイト

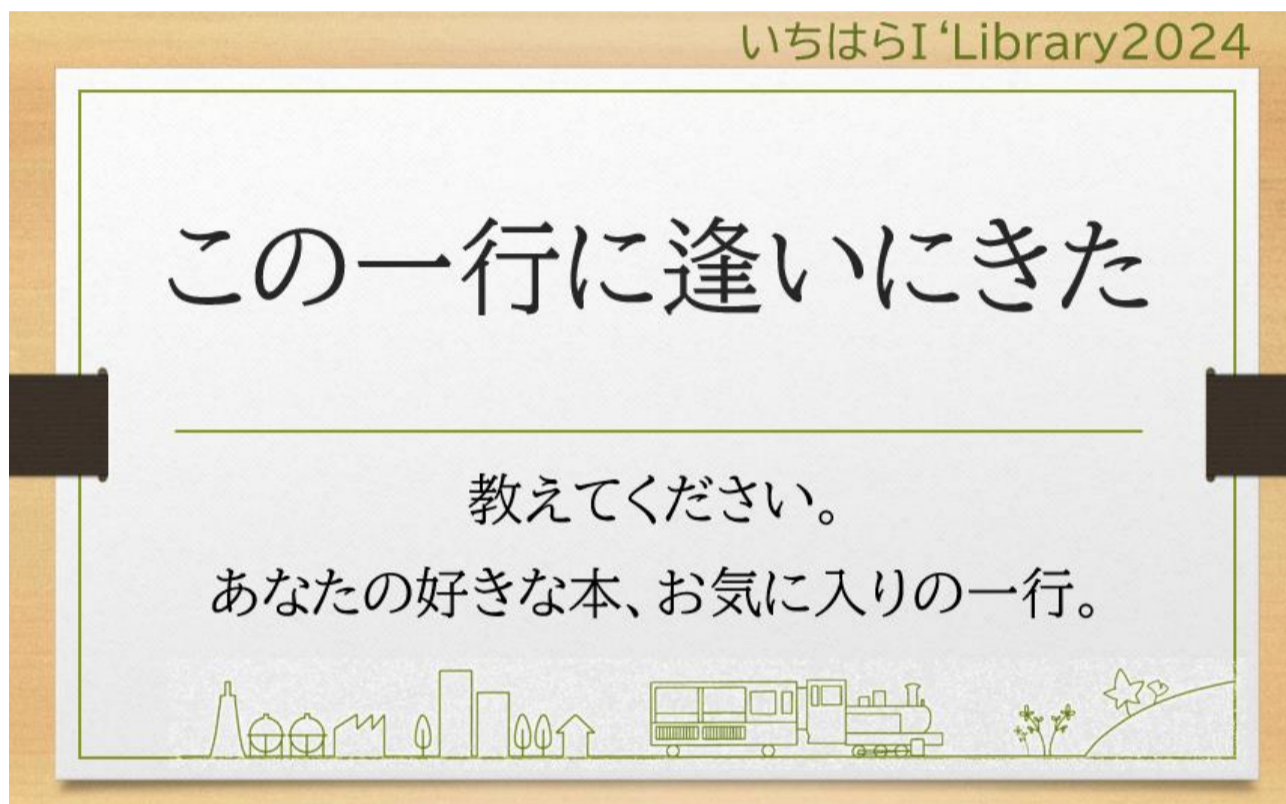


※施設のイラストデザイン © kumori

中央図書館は、6月3日から11月30日(予定)まで休館し、空調設備やトイレなどの改修工事を行なっています。休館中に利用できるサービスの最新情報は、図書館ウェブサイトなどで確認してください。

## いちはら I' Library2024

### 共通企画展示



「この一行に逢いにきた」記入用紙

理由(思いやエピソード):

**見本**

配布場所:  
市内各公民館・  
コミュニティセ  
ンター図書室

著者名:  
書名:  
掲載ページ:  
出版社:

10月27日(日)～11月9日(土)読書週間企画「いちはらI'Library2024」共通企画として、第78回読書週間の標語「この一行に逢いにきた」展示を各公民館・コミュニティセンター図書室で行います。利用者の皆様に自分の好きな本の一行とその理由(思いやエピソード)を記入していただき、館内に掲示します。※中央図書館は11月30日(土)まで休館中のため、12月以降に実施予定

### あなたのおきのおきの一、お待ちしています。

たとえば、こんな一行。

それだから、走るのだ。信じられているから走るのだ。間に合う、間に合わぬは問題ではないのだ。

『走れメロス』179ページ 太宰治/著 新潮社 2005年

この世には不思議な事など何もないのだよ、関口君

『姑獲鳥の夏』23ページ 京極夏彦/著 講談社文庫 1998年

ライオンに追われたウサギが逃げ出す時に、肉離れをしますか？

『オシムの言葉』28ページ 木村元彦/著 集英社インターナショナル 2005年

幸福な家庭はすべて互いに似かよったものであり、不幸な家庭はどこもその不幸のおもむきが異なっているものである。

『アンナ・カレーニナ』冒頭 トルストイ/著 新潮文庫 2012年

一般の部

一般の部は小説85点、エッセイ（紀行文を含む）28点の計113点の応募がありました。椎名誠選考委員長（作家）はじめ、加賀美幸子委員（元NHKアナウンサー）、岸本（下尾）静江委員（作家、市原市内在住）、竹下亜紀委員（小学館学芸編集室編集長）による厳正な選考の結果、受賞作品が決定しました。

ここでは、椎名誠選考委員長の講評の一部と、受賞作品、受賞者コメントを紹介します。

※椎名誠選考委員長の講評全文は、11月刊行の受賞作品集で読むことができます。

椎名誠選考委員長による講評



椎名 誠 選考委員長

エッセイ部門の大賞『癒しの小さな旅』は清掃管理者として働く一人身の「私」が日々の生活や仕事から堆積している疲れを感じ、市原の主にぞうの国に癒しを求めて旅に出る。この小さな旅で出会った様々な人および動物との出会いの記述がとても丁寧でしみじみ感動する。こういう真面目で真摯な生き方をしてきた作者の人生に喝采を送りたい。

小説部門の大賞『更級学生寮』は非常に素直にストレートに、そして正しい視線で捉えたささやかなヒストリー。今回は小説、エッセイ部門で教科書のようなまっすぐな視線でとらえた作品が多く目についたが、本作品はその代表をいくもの。地方都市の新聞販売店のシステムを知ると同時に、その経営していく難しさ喜びを心地よく堪能した。

小説



更級学生寮

久保 協一（岩手県盛岡市）

受賞のお知らせをいただき、嬉しさより、どうしてこの俺が、という驚きを抱きました。半世紀以上も前の微かな記憶を辿り、思いつくまま文字を連ねた拙作に、審査員の先生方がお目通しく下さいましたこと、誠にありがたく、深く感謝申し上げます。

また、このような素晴らしい発表の機会を与えてくださいました関係者の皆様、本当にありがとうございます。

受賞コメント

エッセイ（紀行文を含む）



癒しの小さな旅

大久保 昇（東京都葛飾区）

このたびは大賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。両親のいない悲しみと仕事疲れを癒やすために市原市の旅に出ました。小湊鉄道の駅員さんやぞうの国のスタッフの方々に親切にしてくださいました心が癒やされました。

この受賞を励みに今後もエッセイを書き続けたいと思います。

このたびは本当にありがとうございました。

受賞コメント



## 小中学生の部（短歌）

第4回目となる「更級日記千年紀文学賞 小中学生の部」は、テーマを「空」とし、**小学生1, 433首・中学生1, 120首**ものたくさんの応募をいただきました。選考委員である市原歌人会の厳正な選考の結果、12首の受賞作品が決定しました。



# 青空にそびえたつのは積乱雲 おってくるなどペダルふむ僕

<小学生の部>

市原市立京葉小学校 6年 みうら しゅうすけ

※学校・学年は応募当時のものです

## 三浦宗左さん

### 受賞コメント

ぼくは大賞をとれたと聞いて、とてもおどろきました。短歌を初めて作ってみて、音の数にあわせて単語を探して組みあわせるのが楽しかったです。



## 市原歌人会・会長 市川一子氏による講評

4回目となりました更級日記千年紀文学賞短歌部門のテーマは「空」でした。夢や希望を持つことの出来るテーマに学校を通しての応募も多数あり、昨年大きく上回る作品が集まりました。また、市内はもとより県内外から応募もあり、短歌への関心の広がりを感じました。

作品は暮らしの中から滲み出る歌、鳥になって空を飛んでみたい、虹、夕焼け、てるてる坊主などを詠った、全体的に明るい作品が多く子供たちの元気な姿が見えてきました。

選歌は短歌の基本を踏まえ、自身に引き付けて詠われているか等を基に選考委員十人、心を込め幾度も読み、賞を選ぶ責任の重さを感じながら話し合いを重ねました。視点がはっきりしている、自身の言葉で表現が工夫されている、読み手にその感動が伝わってくる魅力的な作品を選ばせていただきました。

子供たちの頑張った素晴らしい力作をご高覧頂けますようお願い申し上げます。

一般の部と小中学生の部の全受賞作品を、更級日記千年紀文学賞ウェブサイト（下記QRコード）から見ることができます。  
（中学生の部の大賞は受賞作なし）

### ◆第5回更級日記千年紀文学賞開催決定！◆

応募受付期間：令和7年2月1日（土）から2月28日（金）  
（当日消印有効）詳細は右記QRコードからご参照ください。

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

更級日記千年紀文学賞  
ウェブサイトはこちら





## I. 小中学生向け 短歌教室開催しました！



令和6年7月27日、子ども未来館（weほーる）にて、短歌教室を開催し10名の方に御参加いただきました。

「57577（ゴーチチゴーチチシチ）」という短歌のカードゲームでみんなで盛り上がったり、市原歌人会の先生方による本格的な講座を受講したりと、とても有意義な時間が過ごせました。次回の開催も御期待ください！

中央図書館ウェブサイトにて、もっと詳しい教室の様子を掲載しています。ぜひご覧ください！

## II. 「こども おしごとらんど」で図書館職業体験！

令和6年8月3日・4日に、子ども未来館（weほーる）主催の「こども おしごとらんど」にて、約40名の子どもたちに図書館職業体験の場を通して、本のことについて楽しみながら学んでいただきました。

当日は「図書館職業体験ノート」からの問題を答えてもらったり、本に透明のカバーをかけたりと多くの図書館のおしごとを体験してもらいました。

この体験が、働くことの大切さを学び、将来の職業選択のきっかけとなるとうれしいです。



### 本のある日々、図書館のある暮らし。vol22

#### 八幡生まれの釣り上手 山田孫八

皆さんは「国立国会図書館デジタルコレクション」（以下、デジコレ）をご存じでしょうか？これは国立国会図書館が提供する電子図書館で、著作権切れや絶版になった本を閲覧できます。

以前にデジコレで、『山田孫八の釣：附・追想録』（山田孫八/著 青山浩/編,1937年）という本を見つけました。最初はありふれた釣行記だろうかと思ったのですが、読み込んでみると、この山田孫八という人物は市原郡八幡町の生まれで、相当に釣りに凝った生涯を送ったようでした。山田氏の来歴を辿ると、1877年に八幡町に生まれ、13歳の時に上京し板金加工業の親方に弟子入りします。18歳の時分から釣りにのめり込み始め、一方で板金加工の腕も立ち、外国人の得意客も持っていたとのこと。28歳で結婚し、60歳で亡くなりましたが、生涯釣りへの情熱は止まなかったようです。

本書は山田氏が没した翌年に上梓され、生前雑誌に寄稿していた釣行記と氏の関係者らによる追想録からなっており、いわば追悼の意が込められたものでした。本書の出版は山田氏の息子夫妻からも強い要望があったようで、そういった背景からも氏の人柄が読み取れます。最初は一般的な釣り日誌かと思いきや、この本はある種、伝記のような雰囲気も持ち合わせており、印象深い一冊でした。

デジコレは誰でも利用することが出来ますので、ぜひ自分の好きなキーワードで検索してみてください。思いがけず、思い出に残る本に出会えるかもしれません。